



# 自分を越えた眼を Look Beyond Yourself

*Raja*

ラジェンドラ・K. サブー  
1991~1992年度RI会長

## 国際大会

1992. 6. 26 (金) 第227回例会	
1. 点 鐘	
2. ロータリーソング「高めよロータリー」	
3. 「四つのテスト」唱和	
4 食 事	
5. 会長の時間 -	
6. 幹事報告	
7. 各委員会報告	
8. 会員卓話	正岡 文郁君
9. 点 鐘	

## 第226回例会記録 (1992. 6. 19)

会長の時間 濱田 松太郎  
皆さん今日は、本日は第226回例会です。  
例会場を、ここ佐土原町大字東上那珂字新木の清 忠寿アトリエに、職場訪問ということで変更いたしました。皆様には遠路のところご出会いただきまして、本当に有難うございます。  
実は、先月半ばでしたか、新聞で清 忠寿先生の個展が当所で開催される旨報道されておりましたのを知り、僕も早速当所へお伺いし、展示中の絵を見せていただきましたが、本当に見事な絵ばかりでございました。そのうえ、先生の絵書きをされるご態度にものすごく感動を覚えましたので、当クラブの本日のゲスト卓話に是非お願いしたいと思っておりましたところ、直接アトリエ訪問ならよろしいとのご承諾をいただきましたので、本日のような次第になりましたことをご報告申し上げますとともに、先生

に対し厚く御礼申し上げます。

ロータリーの友発行の「美から美へ」序言として、次のようなことが述べられております。  
「人は誰でも、美を憧憬する。人は誰でも、美を探求する。人は誰でも、美を創造する。それは、美から美への人間の安らぎである。そこに真理が生まれ、人間に平和な心が生まれてくる。そして、人間が美を愛する限り、そこに平和がある。美は永遠に消え去ることなく、人間が地上に存在する限り、人間の心が人間を愛する限り、美は地上に永遠に残るであろう。」

本日は皆さん、清先生の絵画製作に対する執念を肌でじっくり感得していただければ幸甚に存じます。

ここで、清 忠寿先生のプロフィールをご紹介します。

- 昭和25年 佐土原町大字東上那珂新木において出生
- 昭和41年 はじめて、農業の後継者を目指して農業高校に入学したが、半年で中退し県立妻高校に入学
- 昭和47年 大分県立芸術短期大学卒業  
都井中、妻中、東大宮中の教職を歴任後、創作活動に専念
- 昭和48年 アトリエが火災に遇い、これまでの全作品百数十点を焼失
- 昭和49年 宮日美術展に初出品入賞、その後も受賞を重ねる
- 昭和54年 28歳の若さで(歴代最年少) 宮日美術展無鑑査となる

昭和55年 宮日大賞受賞

県展でも受賞を重ね、文部大臣賞受賞  
美術評論家「坂崎乙郎氏」の推薦により、東京の紀伊国屋画廊企画による個展を開く  
県総合博物館に作品が収蔵される  
以後、東京銀座アートギャラリー等で個展を中心に作品を発表

昭和63年・平成3年 バリーのグランパレ美術館を会場とした国際展 —  
日仏現代美術展に入選

平成4年 アトリエ火災から20年目の夏を迎え、現アトリエ（作業場）で個展を開く 初の地元個展として好評を博する

以上で清先生のプロフィールを終わりますが、このたびの私共の訪問に対しまして、先生には創作活動等大変ご多忙の中を、佐土原ロータリー・クラブのため快くご賛同賜りまして、アトリエ訪問ができましたことを心から御礼申し上げます。

幹事報告

鈴木正敏

- 宮崎市郡6RC会員名簿は、印刷業者が変更になりますので、必ず顔写真を提出してください、との要請がありました。
- 例会変更通知
  - 宮崎北RC 6月24日 18:00~  
H・フェニックス
  - 宮崎中央RC 6月25日 18:30~  
H・神田橋
  - 宮崎南RC 6月29日 18:30~  
H・プラザ宮崎
  - 延岡東RC 6月29日 18:30~  
ガーデンベルズ延岡

出席報告	委員長代理	岩切正司
会 員 数		16名
欠 席 者 数		3名
H C 出 席 者 数		13名
出 席 率		81.25%
欠 席 者 名		池田・神宮寺・郡司

ビ ジ タ ー

宮崎RC	鈴木 英介君
宮崎北RC	片地 昭吉君・金丸 由次君
"	田村 孝君
西都RC	尾崎 公男君・岩切 昇君

特別ゲスト卓話 画家 清 忠寿氏

私は昭和47年より絵画創作活動に打ち込み、自宅の焼跡の厩を改装してアトリエとし、20年後に初めて、辺ぴな我が家でささやかな個展を開きましたところ、意外なほど（思いがけなく）多くの人々に見に来ていただき、大変好評を受け感謝しております。これまではデパートとか官公庁あたりで個展を開いてきましたが、今回ほどの成績はあがりませんでした。

このアトリエは、以前牛とか草刈鎌や草切機などが置いてありましたが、昭和48年、都井中学校の教師として2年生の数学の授業中、突然消防署から電話がありまして、自宅が火事であることを知らされました。直ちに帰宅することになりましたが、校長も年休を取ってわざわざ同行していただきました。さすがに校長は偉いと思いました。我が家に帰ってみると、厩に置いていた百数十枚の絵が全部焼却していて、呆然自失の状態に迫られました。父母が「ほかの物はとにかく、お前の絵画だけでも取り出したかった。」と片隅で泣いていたのが印象的でした。23歳の春、失意のどん底にありましたが、東京の友人から誘いがあり、1週間ぐらいてして上京し滞在しました折りに、東京近代美術館でベルギーの作品展の前に立った時、異常なくらい動悸を覚えました。私ははじめて拳を握りしめ、「よし、やるぞ」と心に誓いました。

それから創作活動に入り、翌年から宮日美術展に出品し、28歳で無鑑査となり、宮日大賞を受賞するに至りました。

そのうちに、美術評論家坂崎乙郎氏から、個展を東京でやってみないかとの勧めがあり、紀伊国屋画廊で個展を開きました。（次号に続く）